

平成29年度 第1回 豊岡市子ども・子育て会議 議事要旨

日時	平成29年8月28日(月) 13時30分～16時00分	
場所	豊岡市民会館 4階 講座室	
出席者(委員)	横川会長、滝本副会長、西村環委員、吉谷委員、福富委員、岡藤委員、西村充春委員、吉盛委員、今井委員、上崎委員、與田委員、西垣委員、米田委員、久保川委員(代理 三上室長)、丸谷委員	
(事務局)	宮本課長(途中退席)、福富所長、富岡参事、山田主幹、佐田係長、木村主査、岩本	
欠席者(委員)	出口委員、森谷委員、前田委員	
会議次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 辞令交付 4 委員紹介 5 議 事 (1) 報告事項 ア 教育・保育の利用状況及び取組状況について 資料2-1～7 イ 放課後児童クラブの利用状況について 資料2-6 ウ 地域子育て支援事業の取組状況について 資料2-7 エ 子ども・子育て支援事業計画のH28実施状況と評価 資料3、4 オ 小規模保育事業の応募状況について 資料5 (2) 協議事項 ア 豊岡市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直し(案)について 資料6 イ 委員任期の延長(案)について 資料7 6 その他 (1) 次回の会議日程について (2) その他 7 閉 会	
配布資料	資料1 豊岡市子ども・子育て会議委員名簿 資料2-1 平成27～31年度の児童数(実績値と計画値) 資料2-2 平成28年度 幼稚園・保育所・認定こども園の開設・入所・待機児童の状況 資料2-3 教育・保育に関する量の見込みと就園実績 資料2-4 ①保育所初日在籍入所児童数一覧表(H29.3.1現在) ②保育所初日在籍入所児童数一覧表(H29.8.1現在) 資料2-5 幼稚園別園児数(H29.3.1 H29.9.1現在) 資料2-6 放課後児童クラブの量の見込みと確保状況	

資料2-7 地域子ども・子育て支援事業の取組状況

資料3 豊岡市子ども・子育て支援事業計画 平成28年度実施状況と評価

資料4 第3次とよおか教育プラン 平成28年度実践計画最終検証総括シート

資料5 小規模保育事業の募集状況等について

資料6 豊岡市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直し(案)について

資料7 豊岡市子ども・子育て会議 委員任期の延長(案)について

## 議事要旨

1 開会	開会の宣言 (事務局)
	<p>教育長あいさつ</p> <p>みなさんこんにちは。紹介いただきました嶋でございます。本庁からここまで歩いてきました。溶けそうに暑い豊岡ですが、子ども・子育て会議にご参集いただきましてありがとうございます。</p> <p>小学校、中学校もあと3日で新しい学期が始まります。今頃青い顔をして宿題をしている子もあると思いますが、宿題はなくても漠然とした不安の中で、なかなか学校に意識が向きにくい子どもたちもいます。校長先生にはそんな子ども達に思いを馳せながら3日間を過ごすようにと話をしています。</p> <p>今から10年ほど前ですが、ロバート・フルカンという牧師さんが1冊の本を書きました。「人生のすべてのことは幼稚園の砂場で学んだ」という本です。そこに書いてあることは、例えば約束を守ることとか、ズルをしないこととか、みんなで分け合うこと、散らかしたら自分で片づけること等、子育ての根幹にかかわることがはっきりと書かれていました。私も研修センターの所長をしておりましたので、それを読みまして、大変深い感銘を受けました。アメリカは教会がありますので、就学前の教育についてはあまり先進的には進んでいなかったのですが、このロバート・フルカンの1冊によって就学前の保育教育が見直されてきた。そういう大きな影響を与えた1冊でした。</p> <p>日本もここ近年、保育教育、それにかかわる子育て支援の在り方について深い論議が交わされるようになってきました。その背景には子どもを取り巻く環境の変化、もっとも変わったのは少子化、1899年から子どもの出生数が調査され始めたといいますが、昨年初めて、生まれた子どもが100万人を割ったという報道がされていました。もう一つは核家族化し地域とのつながりがなくなってきたことです。そのことで保護者が孤独感を持ったり、どう子育てをすればよいのかわからなくなってきた、そんな声が聞かれます。私は一昨年前まで6年間小学校の校長をしておりましたが、そんな事例をたくさん見てきました。その保護者の不安が</p>

	<p>子どもの不登校に影響を及ぼしたり、あるいは虐待という行為に出たりということが毎年のようにありました。そんな豊岡だけではなく、日本全体の問題に対応するために、平成24年に子育て3法案が成立され、豊岡市教育委員会もそれを受けて25年から子ども・子育て会議を立ち上げて、豊岡市子ども・子育て支援事業計画を9回の会議にわたって審議をしていただき、しっかりとしたものを作り上げていただきました。私も教育長になって初めて目を通して、大変立派な計画だなと感じております。平成27年度から5か年間の計画でこの事業は実施されます。本年度は中間年で中間の見直しをするということで、みなさんにお集まりいただきました。兵庫教育大学からは横川先生にも毎年のように来ていただき、大変お世話になっています。みなさんにもこの計画について様々な立場から忌憚のないご意見をいただき、見直しができますことをお願いいたしまして、開会にあたってのご挨拶といたします。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
	<p>課長あいさつ</p> <p>4月からこども育成課長を務めさせていただいております、宮本と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。少子化や核家族化、女性の労働力への期待の高まりによりまして家庭を取り巻く環境、子育てを取り巻く環境が大きく変化しております。地域で子育てを支え、寄り添う、そんなまちづくりを進めていくことが必要だと感じておりますので、皆さまのお力添えを賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>本日は報告事項といたしまして、事業の取り組み状況、また協議事項といたしまして、子ども・子育て支援事業計画の見直し等について、上げさせていただいておりますので、それぞれご審議いただきますようお願いいたします。</p>
<p>2 会長あいさつ</p>	<p>会長あいさつ</p> <p>先ほどあいさつがありましたように、本年度は、教育長やこども育成課長の交代があったようです。豊岡市教育委員会も新しい体制の下、豊岡の子ども・子育て支援をますます推進されますようお願いいたします。</p> <p>さて、委員の皆様には、公私ともご多用のところご参集いただきありがとうございます。天気予報を見るたびに豊岡はすごいなと思っておりました。昨年も申しあげたかもしれませんが、近年、台風や集中豪雨などにより、各地で大きな被害が出ています。今月の7日には台風5号が近畿地方を直撃しましたが、豊岡市では大きな被害もないと聞き、安堵しています。私たちの住む地域も終日警報が出ているような状況でした。その日は先生方の免許更新の講習をやる日になっていたのですが、警報で中止になってしまいました。また秋にやることになってしまいました。これからが本格的な台風シーズンですので、災害が起きないことが一番</p>

	<p>ですが、それぞれ万が一に備えていただければと思います。</p> <p>本日は平成29年度の第1回目の会議となります。年度が変わり、PTA役員交代などで新しい委員の方が7名あるようですので、簡単に子ども・子育て会議の役割を説明します。</p> <p>この会議の設置目的は、「豊岡市子ども・子育て支援事業計画」を策定するということとなりますが、平成27年3月に策定いたしました。</p> <p>策定後のこの会議の役割は、この計画の進行管理ということで、幼稚園・保育所・認定こども園の必要量の確保方策や具体的に取り組まれている子ども・子育て支援施策の点検や評価などを行うこととなります。</p> <p>なお、本年度は計画期間の中間年にあたり、計画の一部見直しについて検討を行うことになっていきますので、よろしくお願いします。</p> <p>本日は、平成28年度の状況の報告と、計画の見直し等について事務局から提案がありますので、それらの協議をお願いしたいと思います。</p> <p>新しい委員の方もおられますので、事務局の説明は、わかりやすくお願いいたします。</p> <p>本日は、報告事項や協議事項が多くあります。限られた時間となりますので、会議が円滑に進行いたしますよう、委員の皆様の格別のご協力をお願いしまして私のあいさつとさせていただきます。</p>
<p>3 辞令交付</p>	<p>参事</p> <p>次に辞令交付を行います。</p> <p>本年度から、新たに委員をお願いいたします方に辞令を交付させていただきます。</p> <p>本来なら、お一人お一人に交付させていただくところですが、時間の都合上、机上配布とさせていただきますので、ご了承いただきますようお願いいたします。</p>
<p>4 委員紹介</p>	<p>参事</p> <p>次に委員紹介を行います。</p> <p>申し訳ありませんが時間の都合上、配布しております委員名簿、席次表を確認いただくことをもって、委員紹介に代えさせていただきます。</p>
<p>4 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>事務局</p>	<p>以下のア～オについて一括説明</p> <p>ア 教育・保育の利用状況及び取組状況について 資料2-1～5</p> <p>イ 放課後児童クラブの利用状況について 資料2-6</p> <p>ウ 地域子育て支援事業の取組状況について 資料2-7</p> <p>エ 子ども・子育て支援事業計画のH28実施状況と評価 資料3、4</p> <p>オ 小規模保育事業の応募状況について 資料5</p>

報告事項に対する質疑応答

- 委員 児童数は減少しているものの、待機児童がなくなる要因は何か。
- 事務局 豊岡市の児童数は減少していく傾向であるが、保育ニーズが高まってきている。特に0～2歳児の保育ニーズが高まってきていることが待機児童発生要因と考えている。0歳児3人に対して保育士は1人必要で、1歳児も6人に対して保育士が1人必要である。また、1歳児前後のほふくする子どもの必要保育面積は1人3.3㎡となっており保育室の面積により受入れに限度がある。
- 今の状況としては、待機児童のほとんどは豊岡地域の0～2歳児であるため、そこを解消するため小規模保育事業に取り組んでいる。現在2番目の小規模保育施設の募集をかけていますが、さらなる整備の必要性について、本日の協議事項である中間年の見直しの際にご協議いただきたいと思っております。
- 会長 これは全国的な状況とほぼ変わらないですね。
- 委員 施設の大きさや保育士の数が解決しないと解消できないということですね。
- 会長 そうですね。0～2歳児は広い保育室もいるし、保育士の数もいる。やはり最大の課題は、保育士の確保ということになると思います。
- 副会長 ファミリーサポートセンターについて今の状況を報告してほしい。
- 事務局 まかせて会員（子育てを応援してあげたい人）が25名、おねがい会員（応援してほしい人）が15名の登録があります。ほとんどの地域にどちらの会員がいるが城崎地域はおられません。活動状況としては、放課後児童クラブから習い事への送迎、ママ友同士間の一時預かりが始まっています。
- まだ周知が十分でない感もありますので、引き続きPRに努めたい。
- 会長 費用はどうなっていますか。
- 事務局 謝礼ということで、30分単位で350円、休日等は400円を設定しています。
- 会員の中にはボランティアで…という声もありますが、お互いが気持ちよく活動するためには謝礼は必要と考えています。全国的に謝礼は設定されています。
- 委員 放課後子ども教室というのは、放課後児童クラブとはどう違うのか。
- 事務局 以前、全小学校区に放課後児童クラブが整備されていないとき、毎日ではないが地域の方で放課後児童のお世話をいただいたのが、放課後子ども教室です。地域に根付いているところもあり、平成28年度は、8校区で週に1、2回実施している。これ以上の拡大は難しいと考えているが、可能な地域は継続していきたい。
- 委員 実施場所は。
- 事務局 コミュニティセンターや小学校の体育館のミーティングルームなどで実施されている。
- 委員 やはり人手の問題があるようだが、8校区については継続の意向があるのか。
- 事務局 お世話いただく人の後継者が見つけにくい状況である。8校区についても状況によって継続が難しくなることがある。放課後児童クラブと決定的に違うのが、児童クラブは放課後留守家庭ということであるが、放課後子ども教室は親の就労の有無は関係ないことです。

委員 中学生の育児体験のことなのですが、今まで本園では5年ほど南中の生徒が育児体験に来ていた。園が少し遠いのでバスをチャーターして来ていたが、今年からバス代を出す補助金がカットされたためなくなったと聞いた。課題にも「中学生が活動できる保育の場を広げていく必要がある」と書いてあるし、人権教育や人とのふれあいをもっと大切にしてほしい。

英語遊びの展開について「全園で実施できるように体制を整えた」とある「全面展開を迎える」とあるが、全園展開とは違うということを周知してほしい。

委員 中学生の育児体験は無くなったのか。

事務局 事業としてあるが、移動手段の確保に関係して訪問する園が徒歩で行ける園になっている。ご意見は担当課にも伝える。

委員 「少子化に伴いふれあえる園児の数が減ってきている」という課題はおかしいと思うが。

事務局 旧豊岡地域以外では園児より中学生の数の方が多いという学校があるため、地域性の課題として挙げられている。

英語遊び保育に関しては、市の体制としては全園で実施できる体制を整えています。各園の事情もあるので全園で展開しているわけではありません。誤解を与えるような表現で申し訳ありません。市内全域で取り組める体制を整えているということをご理解いただきたい。

会長 放課後児童クラブの指導員の確保について、先ほどの説明で、本年度は2名の支援員の増員確保ができたため、これだけの受入れができていたというような説明があったと思うが、今はどのような状況なのか。

事務局 ニーズに応えられる受入れができるように、必要な人員配置のための予算措置は行っているが、求人に対して応募がない状況です。

事務局 放課後児童クラブの支援員の増員を図ったが、やはり資格が小学校教諭、幼稚園教諭の免許が必要で、先ほどの保育所の待機児童の件もあるが、同一の資格を持った人材の取り合いになってしまう状況である。放課後児童クラブの支援員確保も課題となっている。

会長 豊岡だけでなくこの市町も、地方に行くほど人材の確保は厳しくなっている。都会に集中している状況である。何とかしなければ保育の質の確保のためにも必要である。

ほかに何かございますか。また最後の全体を通しての意見交換の場で構いませんので、ご意見ご質問がありましたらご発言ください。

時間の都合もありますので、次の協議事項に進ませていただきます。

## (2) 協議事項

事務局 以下について、説明

ア 豊岡市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直し(案)について 資料6

協議事項に対する質疑応答

- 委員 平成30年度から、3歳児の1号認定の受入れとあるがどのようなことか。
- 事務局 現在は、このとり認定こども園1園が実施されているが、私立認定こども園に来年度からの意向を照会したところ、2園から実施の意向がありましたので、来年度からは3園で実施する予定です。
- 委員 病児保育事業の利用者の数が実際より少なかったというのは、祖父母が見ていたり、母親が仕事を休めたりしたことで計画よりニーズが少なくなったということか。
- 事務局 計画策定前に実施した市民アンケートのニーズ量に基づいて、今の量の見込みが算出されていますが、アンケートですので、「サービスがあれば使いたいか」程度のニーズも含まれており、計画全体としてニーズ量が大変大きい値になっています。したがって、実際の利用実績により見直しを図りたいというものです。実際はこの人数で予約を断ることがないと聞いています。
- 委員 保護者が子どもの病気で仕事を休みやすい環境であったり、子どもが病気の際は子どものそばにいないてはという親の意識があるのならうれしい。
- 事務局 インフルエンザなどの流行の状況によって利用状況は違います。今の時期は1日1～2名である。インフルエンザが流行すると利用希望が増えるので、冬季は受入れが厳しい日もあるかもしれない。
- 副会長 全体的に現時点で、費用をかけずに見直ししていつている印象を受ける。人の確保にしても、施設にしても、さわらずにお金をかけずにとというような見直し(案)になっている。それで上手くいけば良いが、そのあたりをどう考えているのか。
- 事務局 児童数の減少傾向の中、現時点で大きな施設を作ることは、将来の過剰投資につながる可能性があるため、今回の見直し(案)には採用していません。今回の見直し(案)の「量の見込み」に対する「確保方策」の値は、あくまでも数字上ではあるが、現在の各園の面積と保育教諭数で対応できる値となっているため、確保方策としては、利用定員の増加とし、園の増改築及び保育教諭の確保を掲げていません。しかし、特別な支援の必要な子どもの数が増えたり、諸事情により現在の保育教諭の退職が進むと受入れ数に影響するため、状況に応じて、保育教諭の確保に関して何か方策を検討しなければならないこともあるかもしれません。一方、待遇改善については、国の処遇改善が着実に進められています。特に、今年度の待遇改善は、各園にとっては複雑な制度ではありますが、改善額は高額であるため、今回の見直しの確保方策に待遇を上げるということまでは活字にはしにくい状況です。
- 副会長 保育士の確保は今でも難しく、今後ますます人を増やすというのは厳しいだろう。
- 委員 健康福祉部として利用者支援事業のことが気になる。資料にもあったと思うが

子育て世代包括支援センターというのは母子保健型だけですべてするのは不可能だと考える。連携が必要だと思う。健康福祉部とこども育成課の連携を何らかの形で見えるようにしたい。

養育支援事業は、委託団体ではないが在宅助産師も専門的支援を担ってもらうので、委託をするということで考えているため、確保方策の委託団体等に含めてほしい。

事務局 中間年の見直し(案)については、兵庫県の担当者と協議をしていきます。県とのやりとりの中で修正点など出てくるので、それを受けて来年の2月か3月の2回目の会議に最終案として提示したい。

先ほどの利用者支援については、当初は基本型で立ち上げるということにしていた。基本型というのは横浜市などで行われている育児に関する相談をワンストップで引き受けるというサービスであるが、都市部と地方の豊岡市では担当同士の間隔感にも違いがあるし、同様の機能は、こども育成課、子育て総合センター、こども支援センターで対応できている。

本計画策定時にはなかった子育て世代包括支援センターというものが国の考えとしてでてきた。それを平成29年度から健康増進課で母子保健型で取り組んでいる。当面はそちらで事業の展開をしていきたい。子育てセンターとかこども育成課の窓口、こども支援センターだとかで健康増進課とつなげて行きたい。今回の見直しでは利用者支援事業を母子保健型でスタートさせて、その他の部分でこども育成課やこども支援センターで連携を図りながら進めていきたい。

養育支援事業についても8月1日からスタートしました。家庭に入っていく育児支援のヘルパー業務に関しては社会福祉協議会のヘルパーに入ってもらおうこととしており、今現在はヘルパーの研修を行っており、10月からの活動の開始を目指している。

委員 0～2歳児の待機児童が増えている。支援を要する子どもたちが、全国的にも豊岡にも増えている。その中でお母さんたちの関わり、0～2歳児の愛着形成ができていないからではないかと感じる。健康増進課にも力を入れていただいているし、保育園でもお母さんたちへの声かけをしていただいているが、もう一度、0～2歳児の一番大切な時期の愛着形成を作らないと、その子どもの一生の幸せが来ないということをいろんな角度からお母さんたちに気づかせて欲しい。

委員 病児保育事業としてファミリーサポートセンターで病気の子どもを預かるのか預からないのか。というのも他の場所でも話題になったことがある。会員に研修を受けてもらったとしても、あくまで一般の人の相互扶助の制度である。病気の子どもを預かるのは責任上どうだろうかとの議論になった。もともと豊岡では計画していたのだろうか。

事務局 平成25年の就学前の2000世帯を対象にしたアンケートを受けて量の見込みを出している。国の方もこのアンケートの結果から最初の計画を作りなさいということだった。病児保育事業のファミリーサポートセンターでの受け入れについて



も、当初は数を上げていなかったが、県との協議の中でファミリーサポートセンター事業でも病児の受け入れができるということで100人の数字を組み込んだ。

一般の人が病気のお子さんを預かるというの確かに負担です。看護の資格を持った人が会員になってくれればという想定もあったが、現在の会員の中にそういう方はない。実際の展開は難しいのではということで、今回の見直しではこの数字を計上しないこととしました。

会長 ほかに何かございますか。

それでは、協議事項 ア豊岡市子ども・子育て支援事業計画の見直しについてですが、原案どおりとしてよろしいか。

特に異議はなさそうですので、原案どおり豊岡市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しを承認します。ありがとうございました。

それでは、原案どおり承認されましたので、この内容で兵庫県へ報告してください。

なお、今後、県のヒアリングによる微修正がありましたら、会長と副会長に一任をお願いします。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

会長 それでは、次に、(2)協議事項 イ委員任期の延長について、事務局より説明をお願いします。

事務局 以下について、説明

イ 委員任期の延長(案)について 資料7

#### 協議事項に対する質疑応答

委員 先ほどの愛着形成についてですが、仕事の都合で0歳児から保育園に入れている方もある。保育園に入れても愛着形成はできる。時間より中身が大切である。それができるような政策を考えて欲しい。心の育成、心の教育、豊岡市はそれに欠けているように感じる。地方創生で人を誘致してくるとかだけではなく、子育ての原点に帰る計画ができれば良いと思う。

委員 保育所では、保育所に預けてる家庭の親子を支援されている。親子関係を大事に考えたいということだと思う。

事務局 親子の関係が変わってきているのは事実だと思う。教育委員会も英語教育等だけに力を入れているわけではない。教育プランの検証シートを見ていただければ、こども教育課だけでなく、生涯学習課やコミュニティ振興課も事業に取り組んでいる。家庭だけではなく地域でもつながりを作っていくような施策にも取り組みたい。

委員 地方創生にお金を使うのなら、もう少し子どものためにお金を使って欲しい。遠くの人をこちらに住まわしているんなことをさせるとかだけでなく、今豊岡に暮らしている子どものために一体何をしてくださっているのかも一度見直してほしい。

会長 それでは、協議事項 イ委員任期の延長についてですが、原案どおりとしてよ

	<p>ろしいか。</p> <p>特に異議はなさそうですので、原案どおり進めさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>それでは、任期が近づいて来ましたら、事務局の方で延長の事務を進めてください。</p>
会長	次に、次第の6「その他」について、事務局より説明をお願いします。
事務局	はじめに、(1)次回の会議日程について、事務局より説明をお願いします。 口頭により説明
	<p>事務局としては、県のヒアリングで特に大きな変更がなければ、次回は3月開催を予定しています。大きな変更があれば、3月までに開催が必要かどうか、会長と相談させていただきたいと考えています。</p> <p>いずれにしても、県のヒアリングを受け、会長、副会長と相談して決定させていただきたいと思います。</p>
会長	その他 委員の皆さまから意見はありませんか
委員	<p>今回中間年の見直しということで、この後は最終的には平成31年度に大きな検証をされるということで、それまでは見直さないということか。</p> <p>では、他の委員からも意見があったように、具体策に欠けていると思う。おそらく平成31年度の人数的実績などで変わってくると思うが、その時に人の確保については、どういう方法をするにしても具体的な確保策が必要ではないか。何年までに何人とか、こういうふうにして誘致をする等、できれば予算措置を講じた上でしていただきたい。</p>
会長	やはりそこが一番の課題になってくる。予算を伴った計画についてここの場で議論できればと考える。
会長	それでは、最後に、副会長から、閉会のごあいさつをいただきたいと思います。
5 閉会	<p>閉会の宣言（副会長）</p> <p>たくさんの説明とご意見をありがとうございました。</p> <p>今日、うちの園に来ている実習生が子ども達の前で指導をしていました。その姿が担任の話口調にそっくりでした。表現豊かな職員なので、実習生も影響されるんだろうなと思いますが、学生でも一週間いれば影響される。日々成長している子ども達はもっと周りの大人に影響されているのだろうなと思いました。大きなイベントではなく日々の関わりが大切。今日はたくさんご意見をいただきましたが、日々豊かな子育てができるような子育て会議の内容にしていきたいと思うので、よろしく願いいたします。</p>
事務局	委員のみなさん、長時間の協議、大変ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。